



THE 34TH ARTISTS TODAY

第34回 今日の作家展

APPROACHING REALITY コンセプチュアリズムの新たな展開

3. 4 THU → 23 TUE 1995

10:00 → 18:00 * 無休 & 無料

会場／横浜市民ギャラリー 3F展示室

横浜市役所

横浜スタジアム

至桜木町

JR関内駅

至石川町

大通公園



横浜市民ギャラリー
(教育文化センター内)

至地下鉄
伊勢佐木長者町駅

出品作家

井口大介	DAISUKE IGUCHI
喜多順子	YORIKO KITA
北川裕二	YUJI KITAGAWA
木村友紀	YUKI KIMURA
国民投票	REFERENDUM
スズキヒロシ	HIROSHI SUZUKI
ナカイメグミ	MEGUMI NAKAI

ゲストキュレーター

市原研太郎 KENTARO ICHIHARA

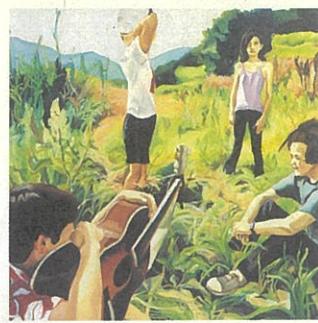
* 初日午後5:00頃から作家によるパフォーマンスあり(予定)

* お問い合わせ 横浜市民ギャラリー 横浜市中区万代町1-1横浜教育文化センター 内
テレホ: 045 224 7920

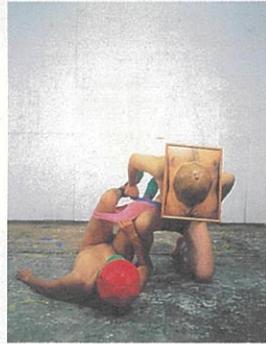
* 交通案内 <JR> 関内駅南口下車、改札を出て右側正面
<横浜市営地下鉄> 伊勢佐木長者町2番出口から徒歩5分
お車での来館はご遠慮下さい。



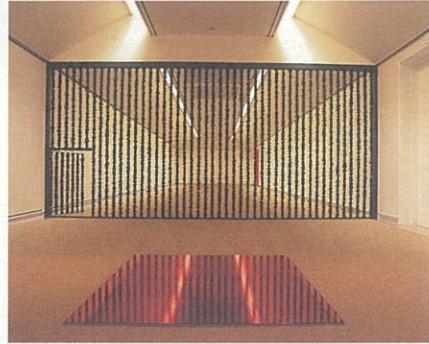
井口大介 「3つのテーマによる100のレフレクション」 1998
個展風景 撮影：末正真礼生



喜多順子 「ウイッスル」 1997 (3枚組のうち)



北川裕二 「単一の、もしくは複数の接合し 分裂する機械としての身体」 1992



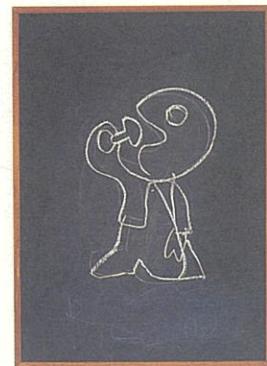
スズキヒロシ 「無題」 1997 田川市美術館での展示風景 撮影：四宮佑次



ナカイメグミ 「Untitled」 1998 撮影：山田寛子



木村友紀 「タテヨコ問題」 1998



国民投票 「アンリ・マティスの世界旅行」 1995



国民投票 「文明はみんな似かよっている、と人々は考えるかもしれない。」 1992
展示風景(部分)

90年代に入って、アートの世界は大きく変容した。フェミニズム、ジェンダー、マイノリティ、プライヴェイト・ライフ、セクシュアリティといったテーマを扱う数多くの作品が出現し、冷戦の終結によって生じた社会状況の急激な変化や混乱を鋭敏に反映するさまざまな表現を人々の目前に繰り広げた。これらの作品に込められたメッセージに共通する社会的な関心は、90年以前のアートにもなかったわけではない。ヨゼフ・ボイスやハンス・ハーケのようなアーティストが、ラディカルで力強く、そして弛みのない創作活動を独自の方法で展開してきたのである。しかし、ボイスのいう「社会彫刻」にせよ、ハーケの作品に現れる痛烈な社会批判にせよ、その背後にある思想は、人間の自由や解放といった理念的な価値を根本に据えており、そこから矛盾に満ちた社会に異議を唱え、全面的に改革しようとする意志に貫かれていた。

ところでボイスやハーケに典型的な活動が、アートの主流を形作ってきたのではないことは断っておかなければならない。モダンアートは、20世紀の始めに革命運動と連動した時期を除けば、社会や政治と積極的に関わる姿勢を見せなかつたし、それ以降も、一部の自覚的な者たちを別にすれば、むしろアートの外の世界とは無縁だった。しかしながら、80年代の後半からグローバルな規模で起こった社会変動は、モダンアートに特有のこの自律性という夢想から目を覚まさせるほど切迫した問題をアーティストに突きつけ、自分の置かれた状況を否応なく意識するよ

うに導いた。とはいっても、ボイスやハーケのように中立の絶対的な立場から、万人に適用される普遍的なメッセージを発することはできない。つまり、アーティストも自分が属しているコミュニティの一員として、そこで引き受けされることになる諸々の条件を考慮して、表現を練り上げていかなければならぬということだ。

では、90年代を生きるアーティストは過去のアートから学べるものはないものだろうか。そうではあるまい。コンセプチュアル・アートは、60年代に純粋なコンセプト(概念)を探求することから活動を開始したが、時を経てその内容がさまざまに分岐し、次第に具体的なテーマを浮き彫りにするようになってきた。90年代の新しい表現の流れは、このコンセプチュアル・アートの系譜学上の後継者と見ることも可能なのだ。しかし90年代は、アートを巡る環境が一変した。アーティストはそれぞれの生きる現実世界のなかで、自ら抱える個別的な問題を提起し、処理し、解答をもたらす端緒としてコンセプトを活用することになろう。ここに登場するアーティストたちは、彼らの取り組む社会的領域で、彼らにとって差し迫ったテーマにかたちを与える有効なコンセプトを紡ぎ出す。そしてそれこそが、彼らのアートがそれを見る人々とのコミュニケーションを模索するうえで、重要な試金石となるのである。